# 当事者ではないでも高齢化する語り人の思いを多くの人に伝えたい


## 松本 愛梨（まつもと あいり）

NPO法人富岡町3·11を語る会


平成4年（1992）、郡山市生まれ。
専門学校（声優俳優科）卒業後、2013年「富岡町生活復興支援おだがいさまセンター」の臨時災害FMに入り、2015年からNPO法人みんぷくのスタッフとなる。2020年4月よりNPO法人富岡町3·11を語る会で活動。

2019年秋の台風19号で、私の郡山市の家は水害に遭ってしまいました。仕事も少し前に辞めていたので、住むところも、車も、仕事もない。そんな私を助けてくれたのが、富岡町の人や、一緒にNPO活動をしていた人たちでした。富岡町の方たちとご縁ができたのは2013年「おだがいさまFM」のスタッフになったことがきっかけ。当時の私は浜通りのことがよくわからなくて、「富岡ってこういうとこだよ」と皆さんに教えていただきながらの毎日。
スタジオには大きな窓があり、番組をやっていると、皆さん、よく声をかけてくれるんです。それがうれしかったですね。そのときは、自分がやがて富岡町に住むことになるとは思っていませんでしたが、これが縁なのですね。
「富岡町に行きたい」と思ったのは、自然の流れだったように感じています。
今、富岡町3·11を語る会で、事務局として働いています。
「当事者じゃないのに何がわかるんだ」と言われて辛い思いをしたことも。
でも、年々高齢化していく語り人の言葉を残し、伝えていくことが、お世話になった人への恩返しではないかと思っています。
震災当時のこと、そして町の「今」を、多くの人に知ってもらいたいです。

富岡町内を案内するツアーガイドの様子。町内は除染・解体等により、日々変化しつづけている